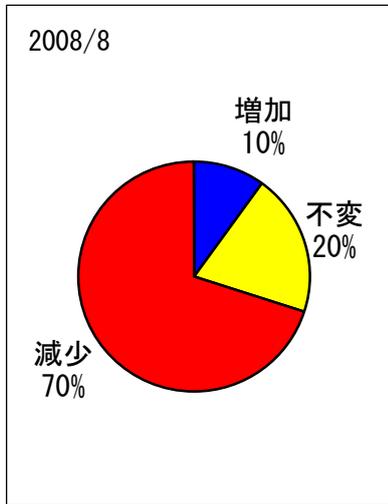
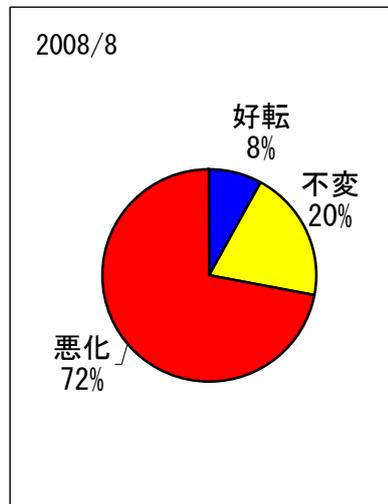


データから見た業界の動き (平成21年8月分)

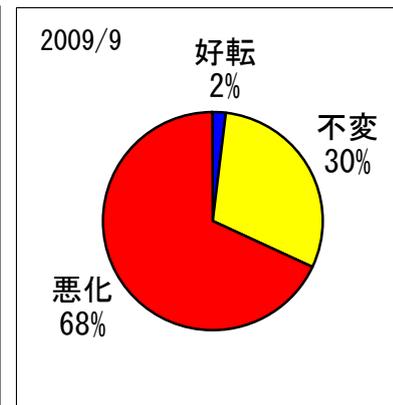
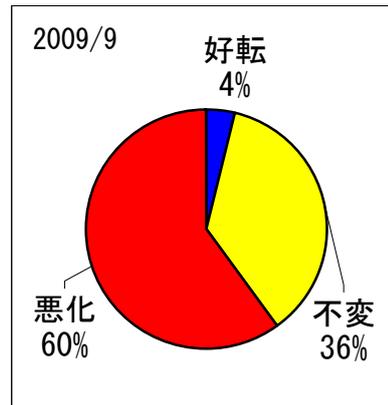
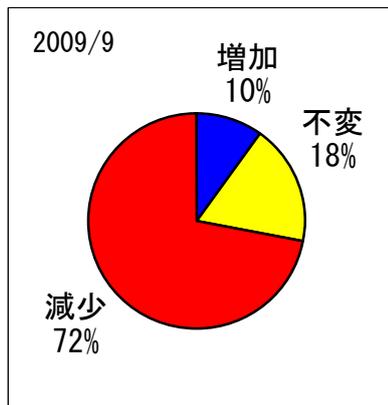
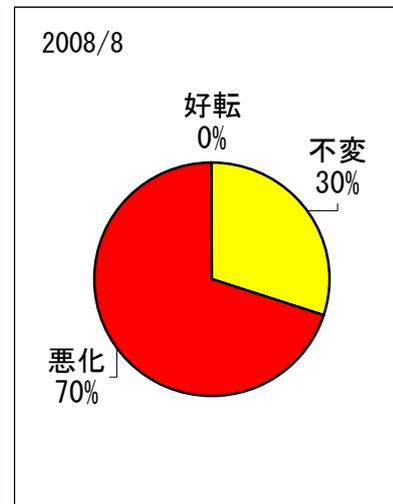
売上高 (前年同月比)



収益状況 (前年同月比)



景況感 (前年同月比)



■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

区 分	製造業			非製造業			合 計		
	08/8	09/7	09/8	08/8	09/7	09/8	2008/8	2009/7	2009/8
対前年,前月,当月	08/8	09/7	09/8	08/8	09/7	09/8	2008/8	2009/7	2009/8
売 上 高	-80	-75	-75	-47	-53	-53	-60	-62	-62
収 益 状 況	-60	-70	-75	-67	-40	-43	-64	-52	-56
景 況 感	-70	-70	-80	-70	-60	-57	-70	-64	-66

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100)=D.I値

■ 概 況

本県の8月の景況は、全業種のD I値では、売上高-62（前年同月比-2）、収益状況-56（前年同月比+8）、景況感-66（前年同月比+4）と製造業のポイント改善によりマイナスではあるが、売上高のD I値の改善が見られた。また、収益状況・景況感は前月と同様に非製造業のポイント改善を受け、連続してプラス水準を維持している。

業種別のD I値で見ると、製造業は、売上高-75（前年同月比+5）、収益状況は-75、前年同月比-15）、景況感は-80（前年同月比-10）と、まだまだD I値は低い水準で推移しているものの、前月比で売上D I値が不変で推移し、前年同月比で5ポイントの改善を見せている。

非製造業のD I値は、売上高-53（前年同月比-6）、収益状況-43（前年同月比+24）、景況感-57（前年同月比+13）と前年同月比での収益状況と景況感の売上高以外でのポイントの改善が今月も見られた。

政府の月例経済報告を見ても、山梨県内の中小企業の実態とは大きく異なって、景気判断は5月から7月まで3ヶ月連続で上方修正されてきたものの、ここに来て8月、9月と景気判断の据え置きをしていることから、中小企業にとっては景気の先行きの不透明感が増した感じとなった。

情報連絡員からは、依然として改善の見られない経営環境下での厳しい状況が報告されている。

政権交代後、どのような中小企業対策が講じられるのか、即効性のある施策に期待されるところである。

■ トピックス

■ 今回は総選挙後に期待される施策や業界、企業において望まれる効果・要望などの意見を求めた。【注：調査期間が総選挙投票日を挟んでいるため、全てのコメントが選挙結果を反映したものではありません】

製造業・非製造業の全体で期待する施策、要望を見ると、「景気対策の継続」、「景気・雇用の向上」、「経済の活性化」、「消費拡大」、「地域産業・中小企業対策」が中心となった。次に業種別で懸念材料をみると、製造業では「高速道路無料化による弊害」、「金融支援の充実」、「国民の負担増」、「公共事業の中止、減少」があげられ、非製造業では、「公共事業(工事)の削減」、「マニフェストの実現と弊害」、「高速道路無料化の弊害と影響」となっており、全体としては「公共工事(事業)」、「高速道路無料化」に対する懸念が大半を占めた結果となった。

また、「景気浮揚策が見えにくい」、「経済が好転するとは思えない」、「施策には期待できない」、「全く期待していない」、「マニフェストどおりに実行出来るとは思わない」等々、期待と要望とは別に、こうした厳しい意見や感想も多く、今回の調査からも業界、企業の様々な考え方、貴重な意見が聴取できた。

■ 業界の声

【製造業】

- 食料品（洋菓子製造）／大手スーパー向けに低価格帯のギフトに切り替えたが、売上高では前年同月に届かず。また、台湾向け輸出は円高により依然として低調。
- 食料品（菓子）／小売業が大型化され、巷の小売店が無くなり、年寄りが買い物できなくなっている。また贈答品に菓子折りを利用しなくなっている。
- 繊維・同製品（織物）／高級生地産地であるため、ロードサイド店向けの安い生地作りができず苦勞している。
- 木材・木製品製造／住宅需要は一時的に良かったが、今後の見通しは立たない。
- 家具製造／家具の販売は、住宅着工件数の伸びに左右される。住宅ローンも伸びていない。
- 窯業・土石（砂利）／9月後半より売上が増加していく気配があるがあまり大きな期待は持てそうにない。
- 窯業・土石（生コン）／8月も出荷が少なく業者の倒産もあった。生コン工場も出荷減のため社内での美化作業等を行っている。（草取り、車両整備等）
- 電気機器／半導体、自動車関係は一部に活発な動きも感じられるが、持続的な回復には至らないようであり、その他95%の企業は依然厳しく先の見通しなど全く立たない状況。
- その他（貴金属）／宝飾業界は性格的にも嗜好品産業の一つであり、実需に欠けている問題がある。また金融機関も締め付けがあり融資も簡単には取り付けられない。販売不振の傾向は全般的で今後の見通しは全くつかない。

【非製造業】

- 卸売（紙製品）／製造業などの生産が戻らなければ当業界の見通しは無い。製紙メーカーの注文は落ちたままで古紙の購入も同様で、操業短縮を相変わらず行い調整している。紙製品が中国から国内に出回るようになり今後も厳しい状況が恒久的に続く。
- 小売（SC）／雑貨、書籍、化粧品関係は80%台となり、食品は前年度対比をкаろうじて90%台後半とした。一方の核店舗のGMSにおいても衣料、生活関連で売り上げを大幅に落とし、食品は90%台半ばで終わった。
- 小売（食肉）／この時期としては、牛・豚共に枝肉価格が史上かつて無い安値で推移。大型店との価格競争で売上高・利益ともに減少。ギフトも高級品が不振で銘柄牛は動かず。外食関係の落ち込みで業務用卸も不振。在庫がだぶついている状況。
- 小売（電機製品）／エコポイントの追い風に乗って薄型テレビを中心に市場が活気づいている。エコポイントや地デジ移行など仕事量の増加傾向から、組合への新たな加入や「デジタル110番」への新たな引き受け店の申込みと良い風が吹いている今こそ組織増強に傾注したい。
- 小売（事務機文具）／設備投資をする企業がない。OA機器の買換えのサイクルが長くなっている。
- 小売（石油）／8月は中東原油が1バレル72ドル前後に値上がりした。これは、米国経済状況の改善とドル安によるものであり、元売り各社は原油輸入価格の上昇により1円程度の値上げを行ったため、各給油所も1円程度の値上げを実施した。9月以降原油の高騰により石油製品は値上げの方向に進むと思われる。
- 宿泊業／昨年11月から、対前年比売上高が下がり続けてきたが、今月は昨年同月の売上まで回復した施設が多かった。しかし、これが一時的なもので終わることを懸念。相変わらずビジネス需要は少ない。
- 美容業／美容業界では低価格競争が恒常化している。お客から複合施術の注文をとれるようさらなる技術の習得をすすめている。エステ、ネイル、メイク等を価格に反映できるような価値を見直す必要がある。
- 運輸（バス）／少ない仕事の奪い合いで価格のダンピング合戦が横行し、悪循環に陥っている。これから秋の観光シーズンに入るが、インフルエンザの影響により旅行の中止が増えないかと心配。
- 運輸（トラック）／景気動向に改善は見られない中で、例年ならばこの時期に輸送量が増加するはずの果実、野菜、水、家電品等の出荷量が低迷している。